表現の発信

4つの展覧会と作家イベント

主催：埼玉県障害者アートネットワークＴＡＭＡＰ±〇、社会福祉法人みぬま福祉会
共催：埼玉県
後援：上尾市、春日部市、川口市、川越市、川島町、行田市、久喜市、熊谷市、鴻巣市、さいたま市、所沢市、戸田市、新座市、東松山市、三郷市、吉川市、嵐山町、ＪＲ東日本大宮支社
協力：埼玉県障害者アートフェスティバル実行委員会、con*tio、chipmunk、pocket、埼玉県立近代美術館、アートギャラリー呼友館
助成：障害者芸術文化活動普及支援事業（厚生労働省補助事業）

1 @春日部市 喫茶ゆめいろ

県東部のみんなが働くカフェからキックオフ！

「うふっ♥埼玉でこんなのみつけちゃった♪」
2017年8月22日（火）～9月2日（土）
多機能型事業所わっくす喫茶ゆめいろ
キュレーション：中津川浩章
出展作家22名／出展作品約110点

テーマ
新たに発掘された「変だけど面白い」作品、思わず笑ってしまうような作品、とってもキュートでカワイイ作品、奇妙なポップさがある作品など、新鮮な驚きとその多様性を見せる展覧会。

作家イベント
【アーティストトーク】作家4名

関連イベント
たけさとゆめいろ祭り

カフェ
喫茶ゆめいろ

2 @川口市 工房集ギャラリー

織もみせますライブもします野菜も売りますグッズ展！

「うふっ♥埼玉でこんなのみつけちゃった♪」織り&グッズ展
ツグズムズ10
11月1日（水）～12日（日）
工房集ギャラリー
キュレーション：con*tio
出展作家181名

テーマ
アートグッズ（商品）をメインにした展覧会。何のための商品化なのかを意識化し、自分たちのグッズの開発やクオリティの向上を目指す「グッズ研修会」の集大成としての展覧会。

作家イベント
【ライブパフォーマンス】作家5名
【ステンドグラスワークショップ】作家2名

関連イベント
おれんじさんの新鮮野菜販売
アトリエ見学ツアー

カフェ
集カフェ

3 @さいたま市 埼玉県立近代美術館

今年で8回目全372作品可能性を秘めた表現がズラリ！

第8回埼玉県障害者アート企画展「うふっ♥埼玉でこんなのみつけちゃった♪」
12月6日（水）～10日（日）
埼玉県立近代美術館 一般展示室1
キュレーション：中津川浩章
出展作家97名／出展作品372点

テーマ
埼玉県内の障害のあるアーティストによる作品展。埼玉県のアーティストの数、層の厚さ、作品のクオリティを一堂に見せる。県の表現活動状況調査をもとに、作品選考会を行い、ＴＡＭＡＰ±〇と協力委員、県職員が協働で展覧会を開催する。

作家イベント
【オープニングセレモニー】作家10名

関連イベント
来場者投票
シンポジウム
ダンス公演

4 @川越市 アートギャラリー呼友館

来場者が選んだ作家10名と北西部の多彩な作品が大集結！

「うふっ♥埼玉でまたまたこんなのみつけちゃった♪」
2018年2月7日（水）～12日（月・祝）
アートギャラリー呼友館（いも膳内）
キュレーション：中津川浩章
出展作家37名／出展作品160点

テーマ
12月の企画展から連動する展覧会。アーティストの数、層の厚さ、作品のクオリティを県北西部に広める。企画展で行った来場者投票上位10名の作品をより深く楽しめるように紹介。

作家イベント
【アーティストトーク】作家10名

今年度も「埼玉県障害者アート企画展」を中心に3つの作品展と1つのグッズ展を開催。4つの展覧会を連動させることで、単に作品を集め選び展示するのではなく、一人ひとりの表現の魅力や可能性、埼玉全体の表現活動の層の厚さを、多角的に発信しました。

昨年度に続き県内各地で開催。タイトルに連動性を持たせながらも、県立の美術館、事業所内のカフェやギャラリー、懐石料理店のギャラリーという異なる空間で、それぞれ特色ある展覧会になりました。

今年度初の試みとしては、企画展で「来場者投票」を実施。上位10名の作品を次の展覧会で取り上げ、一人ひとりの表現の奥行きや幅広さを伝えました。

また、恒例の作家イベントのほか、出展作家が参加するオープニングセレモニーも開催。展覧会が様々な人と交流しながら自ら魅力を発信する表現の場にもなっています。

1 「うふっ♥埼玉でこんなのみつけちゃった♪」@春日部市

来場者数 459人

昨年も好評だった多機能型事業所わっくす「喫茶ゆめいろ」が会場。〝ちょっと変だけど面白い〟をコンセプトに10団体22名の作品を紹介しました。

この展覧会は、12月の企画展に向けてのキックオフ展。コンセプトは、県東部担当者の提案をもとにTAMAP±0定例会で話し合い決めました。また、出展作品の選考は、各施設がコンセプトに合った作品を持ち寄り定例会でプレゼン。キュレーターの中津川浩章さんを中心に、みんなで表現や作家の魅力を語り合いながら選びました。

会期中、会場では、ほぼ通常通りカフェとしても営業。ランチに来たお客さんが作品に関心を持ってくれたり、展覧会をきっかけにカフェを知ったりと、カフェならではのつながりや広がりがたくさん生まれました。

また、新聞に記事が掲載されたことで、近隣地域から足を運んでくれたり、カフェのお客さんが久しぶりに来店してくれたりと、思わぬ出会いもありました。

会場では、月1回ボランティアで来ている演奏家の協力により2回、ピアノ演奏会も開催。地域の人たちに、障害のある人の表現を気軽に楽しんでもらえる機会が増え、事業所のお祭りと重なった最終日は大いに盛り上がりました。

恒例のアーティストトークには4名が参加。2名は初参加で少し緊張気味でしたが、質問に一所懸命答える姿や、家族が話す自分の紹介を誇らしげに聞く表情からも、それぞれの表現活動に対する思いが伝わってきました。

【出展作家】新井貴道　石井陸渡　岩井美和子　小林春介　小林ちゃん　斉藤淳太　利根川美代子　中沢潤　島村利一　田村智宥　齋藤進　苗村安夫　長島文也　原田文　平川寛隆　マスカラ・コントラ・マスカラ　松岡理樹　宮原裕美　森川友博　安田英明　ヤマダジュンヤ　横田和明

至る所に作品が展示された会場は、カフェも通常営業。初めての方にも障害のある人の表現活動を知っていただく機会になった。

TOPICS カフェから日常へ

ワンコインでシェフこだわりのカレーやランチが食べられる喫茶ゆめいろ。その味とあたたかな空間にファンも多く、地域のカフェとして根付いています。

カフェでは常時、事業所のメンバー10名が交代で働いています。今回、そのうち4名の作品も展示されました。

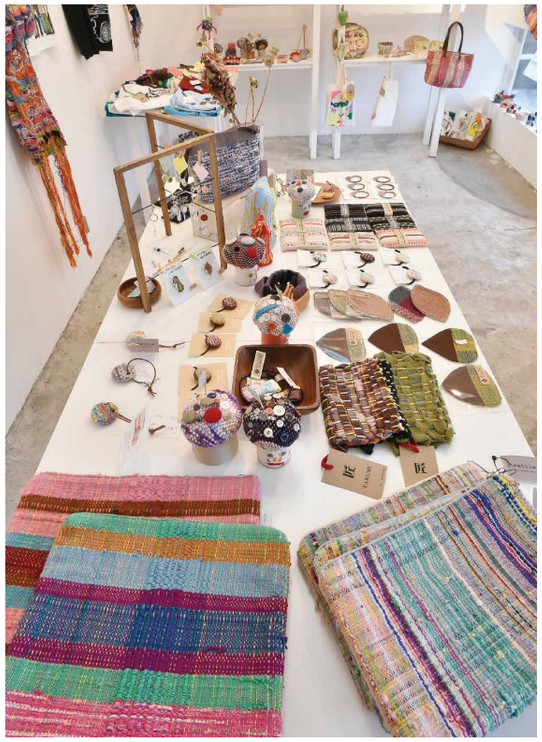
カフェでの開催は、昨年度に続き2回目。食事に来た常連さんからは、「今回はおとなしめな作品展なのね」との感想も。何気なく足を運んだカフェで作品に触れ、それが印象に残り、また関心を持ってみてくれている。地域の人たちの日常に、障害のある人の表現が、少しずつ溶け込んでいることが感じられるうれしい一言でした。

また、以前出展作家を担当していた教員が、偶然立ち寄り、作家と再会して教え子の展示作品を見て驚きながら、その成長を共に喜び合うなど、地域と共に歩んでいる事業所ならではの出会いや出来事がたくさんありました。

2

来場者数 782人

「うふっ♥埼玉でこんなのみつけちゃった♪」織り&グッズ展 ツグズムズ10 @川口市



表現や作家の魅力を商品として発信することで、新たな広がりやつながりが生まれます。織り&グッズ展は、それを実体験する場でもあり、「グッズ研修会」の一環として開催しています。

全9回の研修会には、昨年度より2団体多い17団体が参加。単に売れる商品を作るのではなく、「何のための、誰のための商品化なのか」を、コーディネーターであるcon*tiの杉千種さん、山口里佳さんを交えて考え、意見交換しながら各施設の課題に合わせた商品開発・改良を行いました。

そして展覧会には、個性豊かなグッズがずらり！　特に今年度は、施設間コラボにより各施設の強み、技術や魅力を融合した質の高い商品がたくさん誕生しました。

また、初の試みとして、織りを施設の中心の仕事と位置付けている「織の音工房」と、「工房集」の織物を一緒に展示。作品には各施設の特長が表れ、配色や風合いに自然と人柄が表れる織りならではの味わいや奥深さを、わかりやすく伝えることができました。

グッズ展の来場者は30代が多く、50~60代が多い作品展と比べ、若い世代が障害のある人の商品に関心を持っていることが、アンケートを通して見えてきました。

【参加団体】NPO法人CILひこうせん、NPO法人ゆめたまご、（社福）昴&デイセンターウィズ、（社福）皆の郷川越いもの子作業所、（社福）新座市障害者を守る会、（社福）皆成会、（医）双里会、NPO法人なまずの里、（社福）川の郷福祉会、（社福）啓和会、（社福）戸田わかくさ会、（社福）ワーク&ライクのびっこ、（社福）埼玉県社会福祉事業団あげお、NPO法人織の音アート・福祉協会、（社福）めだかすとりぃむ、（公社）やどかりの里すてあーず、（社福）みぬま福祉会

たくさんのつながりを経て完成した商品の数々。
その見せ方を学ぶ大切な場にもなった。

TOPICS

おれんじさんの新鮮野菜販売

地域の人に喜ばれ、つながりも生まれる野菜の訪問販売。川の郷福祉会おれんじでは、メンバーたちが「大好きな仕事」として100軒を超える家庭に新鮮野菜を届けています。

この5年以上続く販売を「パフォーマンスにできないか」との話がグッズ研修会で持ち上がり、試みることに。施設ではメンバーの描いた絵をあしらった手作りエプロンとメンバーの手描きポップを準備して、会期中の日曜日に出張販売開始。「いらっしゃいませ」と声をかけ、お客さんからは「そのエプロン、売ってないの？」との声も。メンバーの元気が販売の一つのウリとなり、参加メンバーにとっても特別な経験になったようです。

3

来場者数 1,965人

第8回埼玉県障害者アート企画展「うふっ♥埼玉でこんなのみつけちゃった♪」@さいたま市

第8回を迎えた今年度は、97名の372作品を紹介しました。

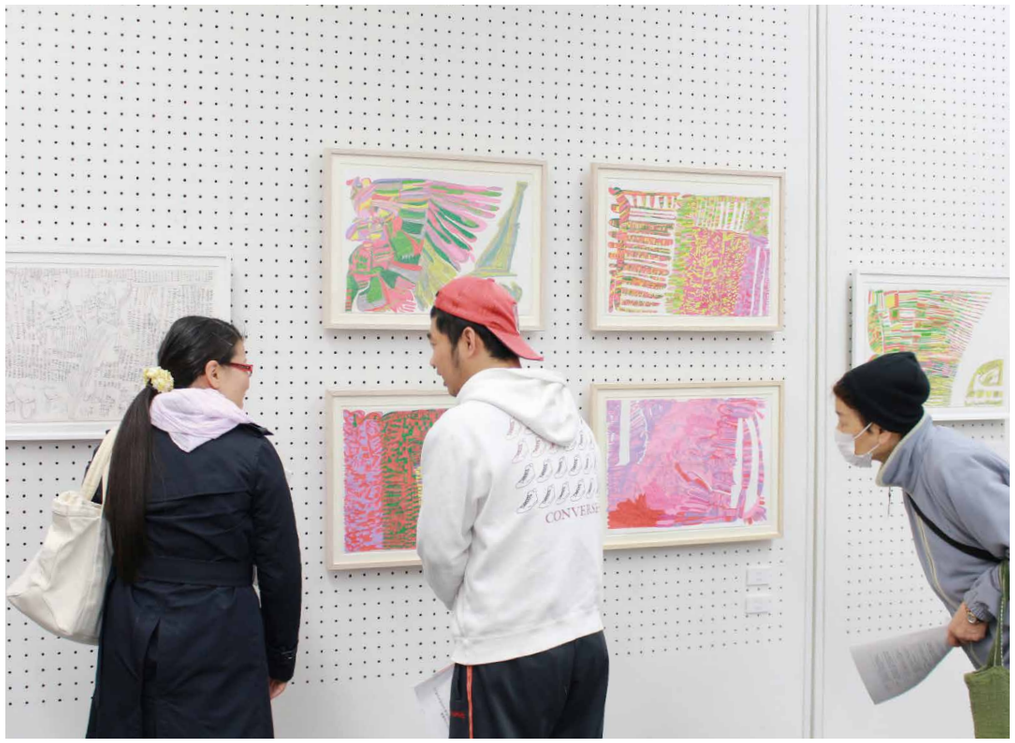
障害のある人の「表現の発掘」を目的に行う県の表現活動状況調査には、過去最多の600以上の回答があり、その調査票（作品画像）をもとに作品選考会を行いました。今年度は、協力委員の美術専門家4名とTAMAP±0の福祉施設職員のほか、協力委員の弁護士や県の職員も参加。総勢47名で「投票＋ディスカッション」方式により、「福祉×美術」など多様な感性・視点・評価を交えて出展作家を選出しました。さらに、美術専門家4名の気になった作家については、創作状況を調べて協議し、最終的にはキュレーターの中津川浩章さんに判断を委ね、出展作品が決まりました。

選ばれた97名の作品は、外部の評価も高い力のある作家の作品から「これはアート？」と議論を呼ぶ作品まで今年度も実に幅広く、表現の多様性や可能性を発信する力強い展覧会になりました。

この県内の表現を発掘し、一人ひとりの表現の魅力を伝えながら、その幅広い作品を通して「アートとは、表現とは、障害とは…」と社会に問うことが、他にはない「埼玉県障害者アート企画展」の特長になっています。

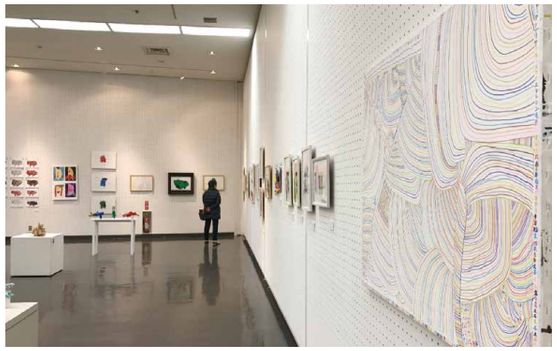
オープニングセレモニー

今回、初めてオープニングセレモニーを開き、出展作家10名がテープカットに参加。主催者や行政関係者と並んで来場者に挨拶をし、報道陣の取材にも応じて創作の想いや出展の喜び、今後の目標などを語っていました。来場者に自ら作品の説明をする姿も多く、テープカットのリボンを記念に持ち帰る人も。それぞれが展覧会という場を実感する特別な機会になったようです。



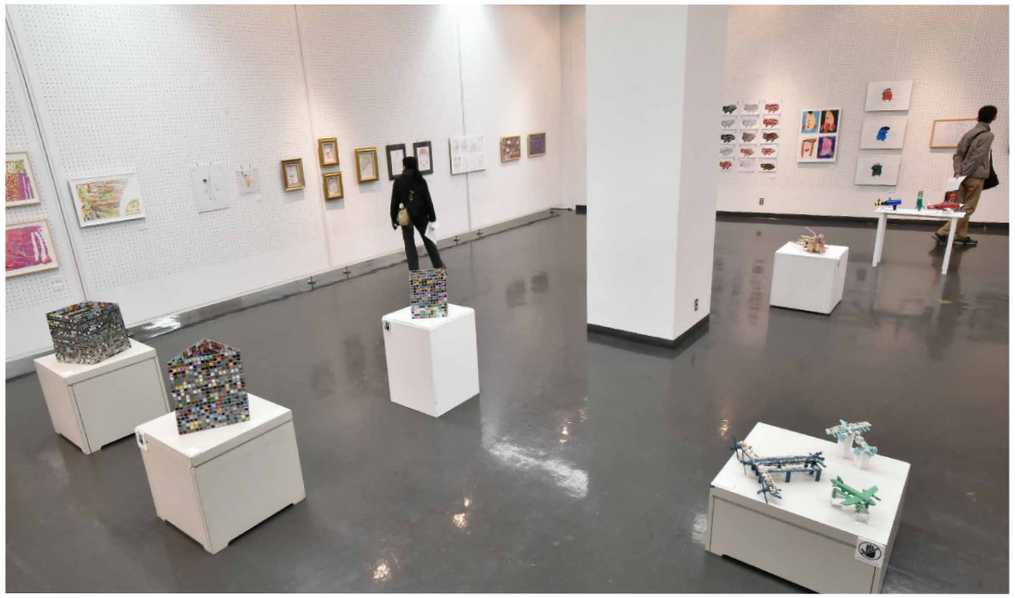
それぞれの深まり広がり

展覧会実践の継続により、作者をはじめ家族や施設職員、施設の仲間や来場者にも、展覧会がさまざまな成長や変化をもたらしていることが見えてきました。詳細は→P40



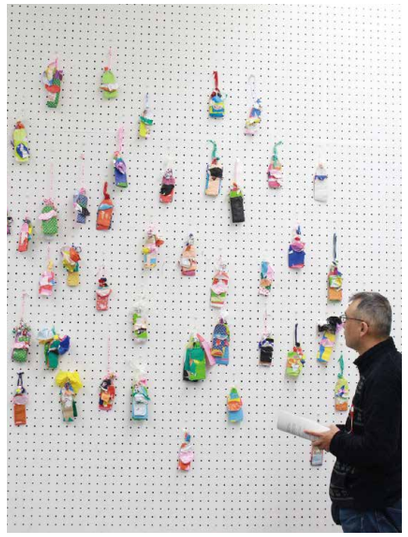
作品集

開催後、昨年度に続き出展作品の写真と解説を収録した「作品集」が発行されました。
発行:埼玉県障害者アートフェスティバル実行委員会



来場者投票

展覧会タイトル「こんなのみつけちゃった♪」を体感してもらうための初企画。総投票数はなんと、1839票！思わぬ成果がいろいろありました。詳細は→P37



【出展作家】平川寛隆　斉藤淳太　高橋香　なお丸　福島尚　相田大希　ユキウサギ　小幡海知生
川田修　小林ちゃん　夘月寛　小原隆　すずきしょうた　大森利浩　堀口孝一　TAKA　金谷ゆり
並木信弘　前田聡男　渡邉あや　安田拓海　西野克　戸田裕人　白田直紀　横山涼　田村智宥
林直登　岩井美和子　本間充広　佐々木省伍　高橋創　高野穂　土屋莉恵　岩瀬賢美　荻原徹
中沢潤　浜林主基　鳥羽直弥　椎橋豊　寺山貴広　織風　阿部香織　髙野博史　千葉治暉　杉本
健太　木津裕貴　三俣ヒロ子　山口敏夫　拓真　Maya　田中信之　豊満紀彦　高橋裕介　赤星
大輔　横田和明　高橋裕子　内藤みひ　大橋まり子　鈴木めぐみ　新堀尚子　齋藤進　ヤマダジュンヤ　髙橋恵子　横井雅美　村上弘樹　小林大河　長谷川真二　宮原裕美　藤崎香織　藤井隆亨
三好進　青木悟　清水聡　佐藤みや子　千葉創三郎　新井貴道　橋本佳奈　尾ケ井保秋　中崎強
髙橋典光　野村真優子　SY　大畑桂子　田中俊人　下浅靖之　島田素美子　鎌田健勇　石井章
河野大輔　大倉健　大澤慧　コバヤシカオル　森川里緒奈　マスカラ・コントラ・マスカラ　原口めぐみ
高橋奈美　杉浦篤

4

来場者数 413人

「うふっ♥埼玉でまたまたこんなのみつけちゃった♪」@川越市

今年度最後の展覧会は、川越の懐石料理店「いも膳」併設の「呼友館」にて開催しました。古い蔵造りの建物を改築したアートギャラリーです。

2階には、12月の企画展で行った来場者投票の上位10名の作品を展示。これぞという作品に絞った作家もいれば、作風の異なる作品を並べて創作の幅を見せる作家もあり、それぞれの個性が際立つパワフルな展示空間になりました。また、1階には、地元県北西部の作家を中心に27名の作品をピックアップ。企画展をさらに深めた多彩な作品を紹介しました。

来場者投票上位10名には、企画展にほぼ毎回出展され年々ファンを増やし自ら活躍の場を広げている常連作家だけでなく、初めて調査票を提出し展示されて選ばれた作家もいました。また、この展覧会に向けて制作した新作を出展してくれた作家や、毎日在廊して来場者に制作の様子を披露してくれた作家もあり、企画展から続けて見に来てくれた人たちを楽しませてくれました。

最終日のアーティストトークには10名が参加。本人だけでなく、作家の家族や職員も、制作の様子やその想いを熱く語ってくれました。

「いも膳」のついでに立ち寄られたお客さまからも、帰りに驚きや感動の声がたくさん寄せられました。

【出展作家】なお丸　宮原裕美　渡邉あや　相田大希　高野博史　福島尚　高橋香　白田直紀
小幡海知生　小林ちゃん　ユキウサギ　コバヤシカオル　石井章　齋藤進　横井雅美　横田和明
前田聡男　三好進　原口めぐみ　藤崎香織　野村真優子　ヤマダジュンヤ　尾ケ井保秋　中崎強
卯月寛　すずきしょうた　青木悟　森川里緒奈　高橋典光　浜林主基　平川竟隆　椎橋豊　髙野穂
大森利浩　並木信弘　林直登　杉浦篤

アーティストトークは本人だけでなく体験した
全員にとって成長の場。

会場の違いや、同じ空間での形の異なる作品の展示など、回を重ねる毎に学びを実践してきた。

TOPICS 来場者投票による気づき

「こんなのみつけちゃった♪」を体験してもらおうと試みた初企画。12月の企画展で来場者に投票用紙を配り、気に入った作家3名を記入してもらう方法で行いました。投票数は延べ1，839票！　結果は同月ホームページで公開しました。

1位2位は100票を超える人気。3～35位は20票以上、63位までは10票を超える僅差。さらに0票は一人もいませんでした。また、「これはアート？」という作品でも10票以上の票を得た作家もあり、その行為の痕跡に人の心を動かす何かがあることを改めて気づかされました。

会場では、「どれも素晴らしく絞れません！」といった感想が多く、作品をじっくり鑑賞してもらえていることを実感。来場者には、なぜその作品が気になったのか、考えてもらうきっかけになり、選ばれた作家には、自分の作品を気に入ってくれた人がどれだけいるのか具体的に伝わり、大きな励みになったようです。

第8回埼玉県障害者アート企画展「うふっ♥埼玉でこんなのみつけちゃった♪」関連企画
来場者投票上位10名 作家紹介

1 なお丸
119票

僕の作品作りの年間計画は、企画展に何を出品しようかと考えることから始まります。大型の作品を作ろうか？左右に突き出た迫力ある作品を作ろうか？可愛い動物をたくさん作ろうか？楽しく毎年考えて挑戦しています。作品が埼玉県立近代美術館に並ぶ達成感は最高です。そして、みなさんに僕の世界を観てもらえましたら超最高です。

2 宮原裕美
104票

細やかな模様の組み合わせで構成された作品を描く宮原さん。コロコロと雰囲気が変わっていく作品と同じように、異次元で不思議な物のようでもあり、ユニークでポップなものでもあり、繊細で大胆で明るく楽しい魅力的な作家です。

3 渡邉あや
69票

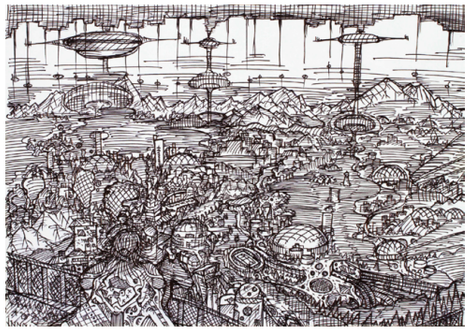
あやさんと言えば、「飛行機」。でも、自分の表現を見つけるまで、さまよい、悩み、模索し続けてきた。養護学校の修学旅行で行った沖縄。「また飛行機に乗って、沖縄に行きたい」という思いから見つけた飛行機というモチーフ。心の深いところにある寂しさや満たされなさは多くの人に認めてもらいたい、関わりたいあやさんの切実な願い。

4 相田大希
61票

支援学校の中学部3年の時から描く事を始め今日に至っています。2002年から二科展やその他の公募展で多数受賞しています。海外で展示された絵もあります。15年間に描いた絵はたくさんありますが、どの絵もその時の大希にしか描くことのできない絵です。

4 髙野博史
61票

退院をしてからの約8年間リハビリも兼ねて毎日絵を描くようになりました。日々すてあーずという作業所で革製品を製作。自分なりのデザインに悪戦苦闘しています。そこでの作業の影響もあるのか、年々より細やかな描写の作品に変化してきました。



6 福島 尚
56票

幼少期から鉄道に強い興味を持ち、列車や信号機、踏切り等鉄道に関する絵を描くようになった。アクリル画や水彩画の他、ペーパークラフトや乗車券のレプリカを作る等、創作範囲を広げている。

7 高橋 香
54票

感情を整理するために描く事が多いです。100色以上の色鉛筆と10B～10Hの鉛筆を使って描いています。何回も重ねて描くので、仕上がるまで時間はかかりますが、その間に気持ちが整理されていきます。

7 白田直紀
54票

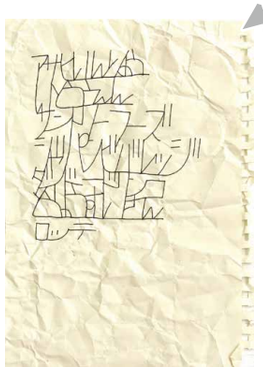
画像を見ながら描くが、決してそのものではない。細かいペン先を何回も往復させ、独特な色彩を出す。今はとにかく花を好んで描いている。愛らしくもあり、それでいて不気味さもある彼の世界がある。

9 小幡海知生
50票

上野博物館に深海魚を見に行き、そこから今回の魚の表現になりました。紙を15枚自分で貼り合わせて、大きな作品に仕上がりました。

10 小林ちゃん
34票

どっしりと椅子に腰かけテーブルに伏せるように、今日も文字や絵を想うがままに綴っています。そして、ゴミ箱にポイッ。しわしわのメモ帳を広げたら、小林ちゃんワールドが、どーんと飛び出してきました。



展覧会の継続によりみえてきた 作家・施設職員・家族・ 施設の仲間・来場者・地域の人たち

それぞれの深まり広がり

展覧会は、「作品を発表したい」「仕事にしたい」と創作に励んでいる障害のある人たちの大きな目標になっています。また、出展作家に自信や意欲をもたらすだけでなく、施設職員や家族、同じ施設の利用者へも変化や成長をもたらしています。

みんなで展覧会をつくることがゴールではなく、鑑賞する(みんなで作品を見に行く取り組み)、振り返る(感想を語り合う)までの一連の流れを大切にすることを継続してきたことで、作家・施設職員・家族・施設の利用者・来場者・地域の人たちなど、様々な人を結びつけ、多面的に深まり広がっていることを実感しています。

その変化がうかがえる声の一部を、埼玉県障害者アート企画展終了後に寄せられたTAMAP±〇メンバーの感想から集めてみました。

作家の変化

● 耳が聞こえず発語もない方だが、「飾られているよ!」ということを職員にアピールしてくれました。

● 一番うれしかったことは、普段見られないような満面の笑みで、「これが私の作品です」と、自分の作品の前で誇らしげにしている姿を見られたことです。

● 普段自分の作品に対して消極的な方にもかかわらず、友人を誘って見学にいくなど、励みになったよう。

● 作品を一つひとつ真剣に見ている様子がとても印象的でした。

● 個人の作家さんが、他の出展作家と出会うことで「自分もこの活動を紹介して、広げていきたい」と思うようになったと話していました。

● いろんな人の作品を見たことで、とても刺激を受けたよう。施設に帰ってから「こんな作品作ってみたいな」という話で盛り上がりました。

● 展覧会を見に行き、とても喜んでいました。いつも鳥の絵を描いていましたが、今は虫の絵を描き始め、影響を受けたのではと思っています。

家族の変化

● 本人と共に喜び、本人の活動を家族一同で支援し、それが、本人のモチベーションにもつながっているようです。

● 「このように作品にしてもらえたことがとてもうれしい。喜びであり自慢。近隣・知人にも伝えた。わが子は基本的に変わらないが、違った面があることを感じられるようになった」という親御さんの声がありました。

作品を見にきた 施設利用者や職員の変化

● 自分と一緒に働いている人の作品が展示されていることを一緒に喜んでくれました。

● 「~さんの作品がよかった」という感想を職員に伝えてくれて盛り上がることができました。

● 見学することによって「自分も展示されているような絵を描きたい」とモチベーションを上げている方もいます。

● 「今度は私も選ばれたい」「展示したい」といった意見がありました。

● 自分の絵が飾られていなくても、見たことで刺激を受け、自分の中に反映させているようです。

● 一人ひとりの持つ力、作品、可能性を広く知らせていくことが大切で、それをどう伝えるかを考えるきっかけにもなっています。

● 職員も展覧会参加を重ねることで、いろいろな刺激を受け、みんなでアイディアを出しながら活動時の道具などを工夫して、楽しめるようになってきました。

地域への広がり

● 後援を町に依頼したことで、当施設で「絵を描いている」という認識が町に生まれ、挿絵依頼を受けました。また、町民ギャラリーに作品を展示しないかという誘いも受けました。

● 市役所より作品を挿絵に使用したいとの申し出がありました。

それぞれの深まり広がりの一例として
シンポジウムで発言された
親御さんの声をご紹介します。

支える家族の想い

――言葉と出会いに救われて

自閉症の息子を持つ母親です。息子は、就労B型事業所で、「できないこと」により精神を患い、行けなくなってしまいました。破壊行為など、どうにもできない状態に、私は何もしてやれず、生きるのも辛く、安定剤ばかり増えていました。しかし、心療内科の医師に、「何かほめてやれることはないの」と言われ、そう言えば6歳の頃から毎日100枚位絵を描いていたなと思い出しました。そして、工房集の活動を知り、息子にも好きな絵を描かせてあげようという気持ちになりました。

また、以前この障害者アート企画展の会場で目にした中津川さんの言葉にも救われました。今日のお話しに出ていた「一本の線でも、障害に負けないで一所懸命に引いた線は違う」ということも、この頃、わかるようになり、その線の表情の違いや本人が描く想像の意味にも、33年経ってようやく気づけるようになりました。

障害者でも、決められたことに従える子が良い子。暴れるのは困った子。悲しいことに、親もその世間の物差しを持って「人様に迷惑をかけないように」との願いで、彼を追いやっていました。

8年が経ち、ギャラリーで展示するご縁にも恵まれ、「ほのぼのとしたなんてやさしい絵なんでしょう」といった感想に、幸せを味わうことができました。作品を見た方が「やられた!」と言われたので、つい「すいません」と謝ってしまいましたが、それはいい意味だった様で、「絵本を作ってみませんか」との声までかけていただきました。

アンケートまとめ

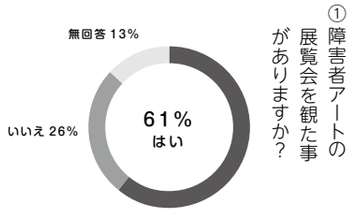
「うふっ♥埼玉でこんなのみつけちゃった♪」 @春日部市

【感想】

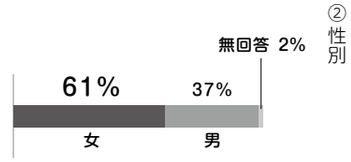
- とても和気あいあいとした雰囲気で楽しい時間でした。
- 食事をとりながらのんびりした雰囲気で作品を楽しむことができた。
- 一つひとつの作品をじっくり見れるような配慮がなされている感じを受けました。
- 会場の雰囲気がとてもよく、作品がよく映えていました。ピアノの演奏が生で聴けて、とてもよかったです。
- どの作品もそれぞれの世界観が見られつつも自由な表現と色彩豊かなものばかりです。
- 全体的にレベルが上がったような気がする。
- 今後とも、各施設がタイアップして、より多くの感動を発信してください。
- 事情はいろいろあるかもしれないけれど、もっと作品を売っていいと思います。この展覧会に並んだ作品たちには十分にその価値があるように感じました。
- どの作品もオリジナルのその人らしさが出ているものばかりだと思いました。作品に囲まれて食事ができるのは良いと思いましたが、食べている人のあいだをぬって作品を見るのは少し気まずかった。(作品を近くで見たかったから)
- みなさんの作品からエネルギーを感じます。いつも展示されているといいなあと思いました。
- 僕の絵も飾られるようにがんばります。

※グラフの数値は小数点以下四捨五入換算(以下同様)

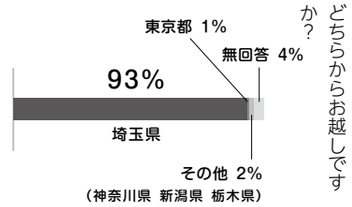
① 障害者アートの展覧会を観た事がありますか？



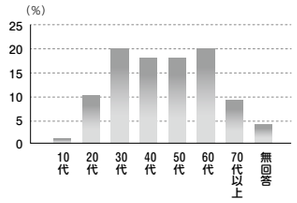
② 性別



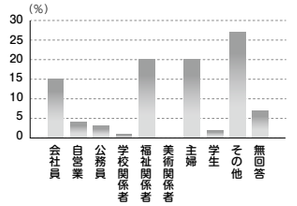
③ どちらからお越しですか？



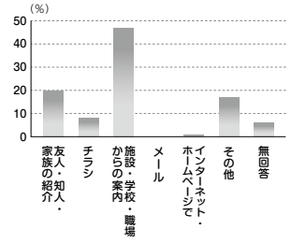
④ 年代



⑤ 職業



⑥ 来館きっかけ



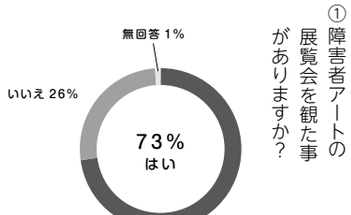
1

「うふっ♥埼玉でこんなのみつけちゃった♪」 織り&グッズ展 ツグズムズ10 @川口市

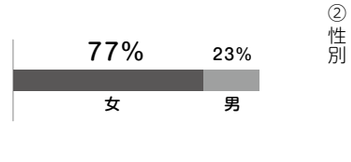
【感想】

- グッズがどれもかわいくてよかったです。来年も楽しみにしています。
- いつも来ると、素敵な作品に出会えるので、作品展を楽しみにしています。
- 野菜販売のテント、良かったです。
- 思わず買ってしまう素敵な展示でした。プレゼントにもすてきです。
- 企画力と商品力がとてもステキです!
- 織り･グッズ展毎年楽しみにしています。障害者アートであることを抜きにしても、作品(商品)の仕上がりの質が高く値段以上のものであると思います。何が飛び出すかわからないところも、毎年の楽しみの一つです。
- 多様な作品があり、十分に楽しむことができた。作品はいずれも色彩豊かで丁寧なもので、値段も妥当だと思った。このような作品展で重要なのは、同情心で購入してもらうのではなく、作品の質と価格を納得して購入してもらうことだと思う。
- ギャラリーとアトリエが一緒になっていて、とても面白い展示の仕方だと思いました。
- ケーキも毎回美味しいです。集カフェのファンです。
- どの作品(グッズ)も輝いて見えました。作品だけ見るのではなく、その背景や作者(人)をまず大事にされているということを改めて感じました。

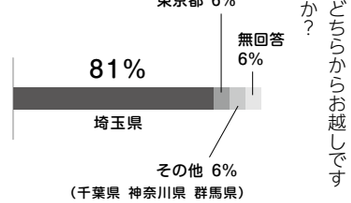
① 障害者アートの展覧会を観た事がありますか？



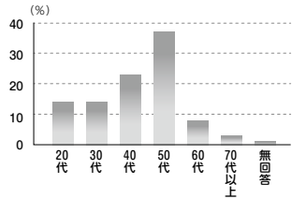
② 性別



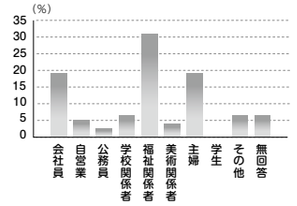
③ どちらからお越しですか？



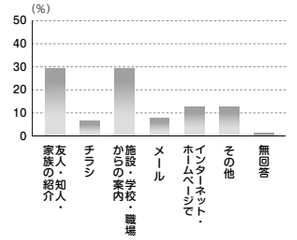
④ 年代



⑤ 職業



⑥ 来館きっかけ



2

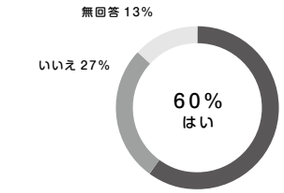
第8回埼玉県障害者アート企画展「うふっ♥埼玉でこんなのみつけちゃった♪」@さいたま市

3

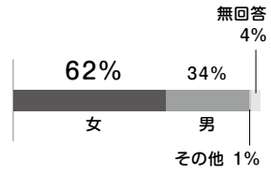
【感想】

- 共感する世界がたくさんあって、とてもドキドキしながら楽しめました。生身の人間のエネルギーをリアルに感じます。
- 発想が豊かで、見る方の感覚も広がる思いがします。
- 夢中で作品に取り組んだその様子まで目に浮かんできます。
- 新しく知る作家さんに刺激を受けたり、知っていた作家さんの表現の変化に驚いたりしました。
- なんだかわからない。バリバリヤバイ。ものすごい衝撃を受けました。
- 私ももっと自分を表現しても良いんだ!と元気をもらいました。
- 本人に会ってみたいと思う作品もあった。
- 作家さんが自身の作品の説明を誇らしげにされているのも印象的でした。
- こんな材料があったんだ、こんな使い方があったんだと技法を知れる上に、こんな飾り方があったんだと見せ方も勉強になります。
- 日常の作者の方の手から生まれるもの、ちぎられた紙コップや、小さく破った段ボールを丸めたものなどは見ていてストーリーを感じられました。展示も工夫されていて、とても素敵でした。
- 彼らの独特の表現にずーっと寄り添って、アートとして完成させているスタッフの方々の尽力に頭が下がりました。
- 去年は走り回っていた4歳の娘がとてもよく見ていて「ステキ」と。自分も作ってみたいと刺激を受けていました。
- 表現の自由を実感する1日でした。子どもたちにも大変良い刺激になりました。

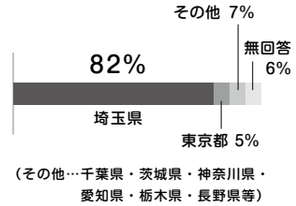
① 障害者アートの展覧会を観た事がありますか？



② 性別

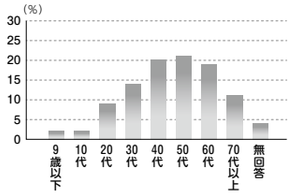


③ どちらからお越しですか？

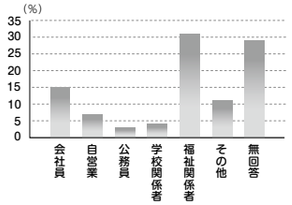


（その他…千葉県・茨城県・神奈川県・愛知県・栃木県・長野県等）

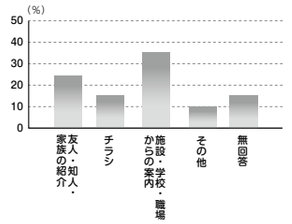
④ 年代



⑤ 職業



⑥ 来館きっかけ



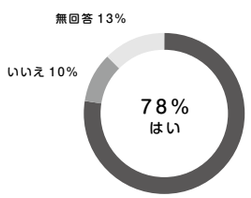
「うふっ♥埼玉でまたまたこんなのみつけちゃった♪」@川越市

4

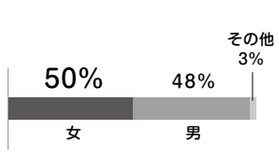
【感想】

- 多彩な作品群には感心するばかり。その中で今回は宮原さん、福島さんの特異な才能に触れることができた。特定の題材に対する徹底したこだわりの深さに底知れない才能を感じる。
- もっとPRをしてより多くの人に来てもらえるように市町村の広報に日時場所などをPRしてみては？　教育委員会などに働きかけてみてはどうでしょうか？他市町村（埼玉県内）で企画してください!
- 素晴らしい作品展を見せていただきありがとうございました。ただただ感動するばかりです。表現力の力強さに圧倒されました。何だか元気になれました!
- どんな障害があっても材料や規格にこだわらず、はみ出てしまう作品も是非作者の宝として大事にしてください。
- 独特の色彩感覚な作品が多く楽しかったです。制作過程も見てみたいと思いました。毎回とても楽しませていただいているので、多くの作品をこれからも出展していただきたいと思います。制作者やスタッフの皆様、ありがとうございます。
- みなさんの生き生きとした姿や作品に感動しました。本日はうかがえてよかったです。スタッフの方々や会場の温かさが大変心地よかったです。また楽しみにしております。
- ギャラリー呼友館の展示、壁の色、ライト（白熱灯）の柔らかな光が展示を引き立てていてとても良かった。展示もとても良かった。
- 障害者アートは継続が大切。継続を宜しくお願い致します。

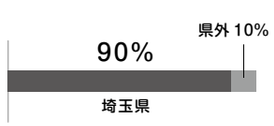
① 障害者アートの展覧会を観た事がありますか？



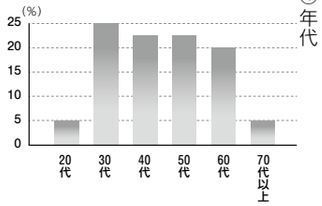
② 性別



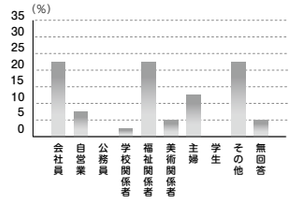
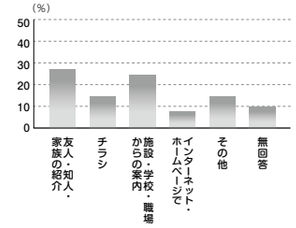
③ どちらからお越しですか？



④ 年代



⑤ 職業



⑥ 来館きっかけ